

水は貴重な資源

枕崎市立立神中学校

二年

吉元

志織

夏のソフトテニスの練習を終えて、冷たい水を一気に飲み干すと、疲れた体が元氣を取り戻します。水のありがたさや、水がないと生きていけないことを実感します。私たちは、蛇口をひねれば当たり前のように水を使うことができません。料理や風呂、洗たくやトイレなど、水を不自由なく使えることで、便利で快適な生活ができます。その一方で、私たちの便利な生活によって生じる排水が、海や河川などの環境汚染の原因になっていることをどれくらいの人々が意識しているでしょうか。

私は、海の汚染が原因で、魚や動物の体に異変が現れていることをニュースや図鑑で目にして衝撃を受けたことがあります。食物連鎖によって私たち人間の体に悪い影響を既に与えているかもしれません。人間の体は約七割以上水できています。自然を破壊し、水を汚染したつけは、いつの日か必ず人間に返っ

てくることを忘れてはいけません。

私は、水の現状について調べてみました。まず、人が一日にどれくらい水を使っているのか調べてみると、一人あたり平均二百四十リットルだそうです。それは、飲む水だけでなく、生活に必要な料理や洗たく、風呂やトイレなどで使用する水も含めた量です。予想していた量よりはるかに多く、大きな驚きでした。その一方で、世界には生活する上で安心して利用できる水が入りできない人々が約三十一億人以上もいます。そのうち、八億人以上の人々は基本的な飲み水さえも入手できません。しかも、三年後の二〇二五年には、地球の三分の二の地域で水不足の影響が開始し、水をめぐって戦争が起こる可能性があることも分かりました。

国連は、二〇三〇年までに「安全な水とトイレを世界中に」という目標を掲げ、「誰一人取り残さない」で目標を達成することを目指しています。世界中の人々が安全な水を手

に入れることによつて健康を維持することができます。また、衛生的に使えるトイレの普及は、人々の生活水準の向上や、国や経済の発展には欠かせません。

日本は島国で海に囲まれ、自然の水循環が非常にうまくいっているため、水資源が豊富で水に恵まれた国だと言われています。年間を通して降水量が多く、豊かな自然をもたらすなど、水から数多くの恩恵を受けています。日本人にとって、水は身近にあり、蛇口をひねれば清潔な水が出てきます。役所や図書館などの公共施設はもちろん、デパートや病院などにも無料の水飲み場があります。レストランに行けば、何も言わなくても、まずコップに入った水が出てきます。その一方で、世界に目を向けてみると、日本の人口よりはるかに多くの人々が安全な水を手に入れることができず、生活に必要な水を池や川、湖などから汲んで使っているという現実。しかも、汲んだ重い水を運ぶ仕事のほとんどを子供た

ちが担っているという現実。そして毎日八百人を超える子供たちが安全な水を飲めないこととで命を落としているという現実。水について調べるほど、私たちのように水は当たり前のように使えるものではなく、限られた資源であることを改めて実感しました。だからこそ、一人一人が水についてもっと危機感をもち、水を大切に使う取組みをしなければならぬと思います。風呂やトイレ、歯磨きなど日常生活の中で水の使い方を見直し、節水を常に心がけること、使う洗剤の量を減らして生活排水の汚れをなるべく減らすこと、ユニセフなどを通して募金し、水に困っている人々の支援に協力することなど、私たちがすぐにでも行動や実践できることは数多くあります。貴重な水の資源をはじめ豊かな自然は今の私たちだけのものではなく、後世に残していくものです。そのために、一人一人の水の使い方に対する意識を変え、具体的に行動することが、今、私たちに求められています。